

いず 何れの 日か 是れ 帰年ならん

今春 看 又 過ぐ

山 青おして 花 然えんと 欲す

こゝ 江 碧に して 鳥 逾 白く

絶句 杜甫

西南の役陣中の作

佐々友房

雨は 3' 5 | 3

戦袍を 3' 5 | 3

撲ち風 3' 5 | 3

沙を捲く 3 | 6 | 2 | 3

江山 1 | 2

十里 3' 3 | 3

両三家 6 | 5 | 3' | 5 | 3

壮因 7 | 6

一蹶 5 | 6

窮り無きの 2 | 3 | 7 | 6

恨み 2 | 3 | 3

馬を 2 | 1

断橋に 3' 3 | 3

立てて 5 | 3' | 5 | 3

落花を 7 | 6

看る 5 | 3' | 3

だんきよう

いっけつ

きわま

らっか

うら

み

従軍行

王昌齡
おう しょうれい

秦時の
しんじ 3' 5 3 5

明月
めいげつ 5 3'

漢時の
かんじ 7 6

關
かん 3' 3 1

万里
ばんり 2 1

長征して
ちようせい 2 3 2 3

人
にん 2 3

未だ
みだ 6 5

還らず
かえ 2 3' 3

但
ただ 3' 3

竜城の
りゆうじょう 3 7

飛将をして
ひしやう 3 6

在らしめば
あ 2 3' 3

胡馬をして
こば 2 1

陰山を
いんざん 3 7

度らしめず
わた 2 3

在らしめず
あ 5 3' 3

夏日悟空上人の院に題するの詩

杜筍鶴

とじゆんかく

さん 三伏 2 3'

門を 5 3'

閉じて 3 3'

いちのう 一納を 3 6

ひら 被く 2 3'

兼ねて 3 2 1

しやうちく 松竹の 3 3 2

ぼうろう 房廊を 2 3

おお 蔭う 2 3' 3

無し 5 3'

あんぜん 安禅は 3' 5

必ずしも 2' 3' 3

山水を 7 6

もち 須いず 2 3' 3

しんとう 心頭を 2 1

めつきやく 滅却すれば 2 3 2 3' 3 5

火も 3 3'

また 亦 7 6

涼し 2 3' 3

ぎよくりし

玉立せる

天明

暮に

夢に

立山を望む

ぐんせん

群仙

日出でて

山林麓に

名山を

我が

驚き

と 投ずれば

見るこゝと

二へん 因分

前に

あい 相

只

四十年

せいがい 青崖

在り

ゆい 揖すれば

うんえん 雲煙

年